

ドレッサージュホースに育てよう!



今回は、全日本馬場馬術大会 Part IIの参加報告です。これは内国産馬のみの大会で、Lクラスの競技に出場しました。L1課目では67%、L2課目では66%を超え、2日間とも2位という結果でした。

しかし、今回の収穫はこの成績だけではありません。内容にこの馬の光るものを見ることができ、今後に期待が持てる感触を掴むことができました。関東で競技会に出場した2月から5月までの最高スコアは61%でした。しかし、6月と7月で全日本 Part IIまでにトレーニング内容を更にレベルアップして調整してきました。なぜなら、60%強のスコアでは内国産馬の競技と言っても、上位入賞も厳しいと考えていたからです。トレーニング内容は、これまで積み上げてきた基礎的な調教が固まりつつあったお陰で、更に上積みすることができたと思います。

まず、大会までに改善したことはコンタクトです。この馬で長い間悩んでいたことは、コンタクトの不安定さでした。そして、コンタクトが不安定ということは、馬の精神面も不安定ということでした。この馬の性格上の気難しさは理解していますが、運動を始めるとイライラ、カリカリすることが多く、時には歯ぎしりやハミを口の中で噛んだり動かしたりもしていました。

しかしながら、そのような不安定なコンタクトが日々安定してきたことによって、馬の精神面も安定してきたことを感じました。それまでの道のりは、このコラムで紹介している自分なりのコンタクトの安定方法を実践することで改善していきました。

しかし、この短期間で根本的な解決を見出せたわけではありません。今もなお不安定な傾向は残っており、今後もハミ受けとコンタクトの改善には引き続き根気強く取り組んでいく必要があります。

以下ここ数か月で改善してきた点をまとめてみたいと思います。

● コンタクトの安定

この馬のコンタクトの悩みは当分この先も続きそうですが、現時点では以前よりも安定性が増えています。それは、シンプルに騎手の騎座の安定からくる拳の静定と、馬自身がそれを維持しようとする意志を強化していくことだと思います。

ただし、依然演技中の隅角通過や回転、肩を内へなどの横運動や移行、それぞれでコンタクトが不安定になる箇所が多かったです。完全なコンタクト安定までの道のりはまだ遠いですが、これまで《バランス》と《ハミ受け》を重点に置き取り組んできたお陰で、安定への兆しは見えてきました。その方法はこれまで紹介してきたものに加え、次回のコラムで《バランス》について詳しく考えてみたいと思います。

● 速歩のベースの動きの改善（スイング）

私は、どんな馬でも常に速歩の動きを向上させることを考えています。それは、7点以上がもらえるベースの速歩を作ることの意味しています。このベースの動きは、今回出場したLクラスのレベルであろうと求めるべきと考えています。また、審判員もその部分を求めて評価する必要があると思います。速歩運動の動きは3種の歩法の中で最も変化が表れやすく、インパルジョン（弾発）のあるベースの動きを求めていく必要があります。このインパルジョンを速歩で生み出すための方法も、今後詳しく紹介しますが、キーとなるのは半減却（ハーフホルト）です。この方法を身に付けると、馬は躍動感を持った速歩に調教することができます。オースミイレブンは、この方法で大きく速歩が変わりつつあります。その延長線上にパッサージュやピアッフェがあるものと考えます。

● 駢歩のバランス改善

この改善についても以前このコラムで紹介しました。

この馬は駢歩のバランスが前のめりのため、駢歩をしながら半減却を利用してバランスバックをすることに徹しました。この部分の調教には多くの時間を費やしました。時にはステップを小さくしたり、収縮度を高めたりしながら後肢を馬体下に進出させ前軀を起こしてやる必要がありました。それらの積み重ねにより、馬自身が自ら頭頸を起こしセルフキャリッジをしていくことを覚え、それを尊重していきました。



● 常歩での緊張緩和

これまでの競技では、常歩区間に問題があることは分かっていました。それは、常歩に移行して動きが静かになると、馬はそれまでの速歩区間などで受けた不快感を、常歩しながら顕著にあらわにしてくれます。手綱によって引っ張られて維持されてきたコンタクトなどの後では特にそうなります。

こうした常歩区間で馬がイライラし、それによってコンタクトも不安定になるのは、常歩区間だけに問題がある、と思うべきではありません。

解決法は、根本的な馬とのコンタクトの関係を見直すことによってしか解決策は見出せません。不安定だから更に強く固定しようとするのは、更に馬の気持ちまでも不安定にしていくことになります。

これまでのコラムで紹介してきたように、馬の気持ちに寄り添った感覚で騎手が修正していくと、ハミ受けが安定してきます。そうすると、馬の口の中の環境も良くなるため、精神的に馬も常に強くハミでプレッシャーを受けていたものから解放されるため緊張が緩和してきます。如何に拳のプレッシャーを最少にして乗るかということを考えるべきだと改めて思いました。

元競走馬のサラブレッドが馬場馬術を行うことは、色々な意味で簡単ではありません。だからこそ海外では元競走馬が馬術用馬になるケースが年々減少している現状があります。近年オーストラリアではヨーロッパから輸入された馬術用馬の生産が盛んになるにつれ、以前よりもはるかに元競走馬の馬術用馬が減ったそうです。

しかし、競馬が盛んな日本では、サラブレッドとの係わりは切っても切れません。どのようにサラブレッドを馬術用馬として調教していくかの課題は、現在では他国にはない馬文化かもしれません。

ただし、私は外国産馬と国内産のサラブレッドへの乗り方を特別に変えることはしません。どの馬も個性があるため、その馬に合わせた乗り方を工夫するだけで、要求する理想は、サラブレッドだからと極端に違うことはありません。

今後も、サラブレッドでも馬術用馬になり得るといふ挑戦をしていきたいと思えます。

L1課目2013			H	C	B
【運動項目】					
1	A X	収縮速歩で入場 停止 - 不動 - 敬礼 収縮速歩で発進	7	7.5	6.5
2	C HK KAF	左手前蹄跡に入る 中間速歩 収縮速歩	7	7	6.5
3	FB	左肩を内へ	6	7	7
4	BX XE	左へ直径10mの半輪乗り 右へ直径10mの半輪乗り	6.5	7	6.5
5	EH HCM	右肩を内へ 収縮速歩	6.5	6.5	6
6	MXK KA	斜め手前変換、中間速歩 収縮速歩	7	7.5	6.5
7	A	停止 - 4歩後退 直ちに中間常歩で発進	6	4.5	5.5
8	AF FS SHC	中間常歩 斜め手前変換、手綱を伸ばした常歩(軽いコンタクト) 中間常歩	12	12	14
9	C CHS	右ヘターンオンザホンチス 中間常歩	6	6.5	6.5
10	S SH H	左ヘターンオンザホンチス 中間常歩 右へ回転	6	7	6
11		SHCHSHG 中間常歩	6	6	6.5
12	G M	右収縮駢歩で発進 右へ回転	6.5	6.5	6
13	MR RF FA	収縮駢歩 中間駢歩 収縮駢歩	6.5	7	7
14	AC	蛇乗り3湾曲 中央線上でシンプルチェンジ	6.5	7	6.5

15		蛇乗り3湾曲上1回目のシンプルチェンジ	7	7.5	6
16		蛇乗り3湾曲上2回目のシンプルチェンジ	6	7	7
17	CM ME EVPB VP	収縮駢歩 斜め手前変換 反対駢歩 直径20mの半輪乗り	7	8	7
18	BRM M	収縮速歩 左収縮駢歩で発進	7	7	7
19	MCH HB BPVE PV	収縮駢歩 斜め手前変換 反対駢歩 直径20mの半輪乗り	7	7.5	7
20	ESH H	収縮速歩 右収縮駢歩で発進	7	7	6.5
21	HCM MXK KA	収縮駢歩 中間駢歩 (Kの手前で収縮駢歩) 収縮速歩	7	8	7
22	A X	中央線上に入る 停止 - 不動 - 敬礼	7	7.5	7
手綱を伸ばした常歩でAより退場					
【総合観察】					
1	ペース		7	7	7
2	インバルジョン		6.5	7	6.5
3	従順性		13	12	14
4	騎手の姿勢、騎座：正確かつ有効な扶助		14	15	14
【得点合計】			191.0	199.5	193
【得点率】			65.862%	68.793%	66.551%
【最終得点率】			67.068%		
【総合観察所見】					
E 良いリズムでした。速歩でトモが踏み込むとさらに良いと思います。					
C 少しずつセルフキャリッジが生まれるといいですね。Good riding!					
M 速歩でもう少し「前へ」の感じがあればさらに良いと思いました。図形、移行はさすがでした。					